

令和2年度外部評価委員会議事要約

- 開催日時：令和2年12月8日（金） 午前9時～12時
- 開催場所：胎内市役所 大会議室
- 出席委員：今井和彦 榎本明子 菅原卓也 高橋勝栄 富澤佳恵 成田武比古
羽田啓史 牧野恵（敬称略）
- 担当課：【施策No.5 生涯学習】
佐藤生涯学習課長、鈴木文化・文化財係参事、横内社会教育係長
【施策No.22 防災・減災】
田部総務課長、近防災対策係長
田中地域整備課長、増子管理係参事、矢部都市計画建築係長
- 事務局：小熊総合政策課長、斎藤行革協働係長、先川主任

施策5 生涯学習

委員：各小学校でわくわくキッズジョブというのをやっているが、子どもハローワークについても小学校との連携は考えているか。

担当課：小・中学校に募集要項を掲示して参加する児童・生徒を募集している。

委員：市内のロータリークラブなどの団体や、電気工事組合・建設業組合などの組合などに呼び掛けて、胎内市にどういった働くところがあるかを広く考えていくと先につながるのではないか。子どもたちも知らない仕事が多いので、いろいろな企業を知ることができると興味も湧いて参加者も増えるし、子どもたちが地元に残る選択肢にもなる。参加者も学校教育課でなく、生涯学習課で取りまとめてもいいのではないかと思う。

委員：過去の外部評価の意見で、財政が厳しい中でどこを取捨選択していくかという話があったが、それが事業に反映されている。陶芸教室の参加費が平成29年度まで無料だったものを受益者負担を徴収することになっているが、何でも無料でいいとは思わないし、しっかり市民に説明して理解を得た上で進めたのだと思う。

他市からの参加者も納税している市民と同一料金はどうかという意見も出ていた。他市の参加者の参加費は上乘せした上で参加の機会を増やしていく。他の事業もこのようにして見直していくことが重要ではないかと思う。

担当課：陶芸教室については民間等ほかの教室の料金も調べつつ、今後も適正な負担額になるように検討したいと考えている。ほかの事業に関しても、市内と市外の方とで差が必要なものについて検討できればと思う。

委員：自然天文館でいろいろなイベントをされているが、ヨガもやっていたのを初めて知った。天文館は胎内の地域資源の中でもピカイチのものだと思うし、イベントを通じて胎内に天文館があることを知る人もいると思う。既にやっていると思うがネ

ットを使った情報発信が重要になっているので、ユーチューブやホームページなどを使った発信に力を入れていてもらいたい。今後の方向性に、ネットでの情報発信の強化を入れてもらいたいと思う。

委員： ヨガに参加したが、幻想的で素晴らしいイベントだったので、来年もやってもらいたい。

委員： 乙地区交流館について、利用者が年配の方が多い印象があるが、きれいでいい施設なので私も会議やセミナーをやったことがある。ホームページなどで使用例を出すといいのではないかなと思う。

委員： 図書館の利用者は意外と子どもが少ない。特に乙・築地・黒川の図書室は利用者が少ないと思う。せっかくなので、そちらでも読み聞かせなどがあればと思う。

委員： 事務事業評価の改革改善の実施状況欄について、「図書館管理事業」では図書館の相互利用について書いているが、相互利用の実績にも触れたほうがいいのではないかな。また、「公民館文化振興事業」では「高校の美術部等」とあるが、「等」の中身まで詳しく書いてもらいたい。この欄は大事なところなので、限られたスペースではあるが具体的に書いた方がいいと思う。

担当課： 詳細を確認して追記する。

委員： 「昆虫の森運営事業」の達成度の判定理由欄で、開館していれば前年度を超えていた「はずである」となっているが、もっと違った書き方がいいのではないかな。

委員： 事実の記述だけで止めておいたほうがいいのではないかな。

担当課： 開館日数と利用者数を比べて、一日あたりの利用者数が伸びているとするのいいのかもしれない。検討する。

委員： 施策評価シートの「取組の状況と今後の方向性」の③で「施設の集約化も考慮」とあるのは、生涯学習センターの建設を踏まえた文言なのか。そうであれば、そこまで触れてもいいと思う。

担当課： 集約した新しい生涯学習施設のことなので、「これまでの取組と実績」の欄にわかりやすく記述する。

委員： 今年昆虫の家に行ったが、すごく人が集まっていた。昆虫の家は、密を避けられる場でもあるのではないかなと思う。目標の人数を上げ、力をいれてもいいのではないかな。

担当課： 今年は目標を上回る多くの利用があり、人数制限も考えていた。もう少し様子を見ながら検討したい。

委員： 子どもを連れていくのに、昆虫の家もフィッシングパークもすごく混んでいて人気がある。密にならないように対策をして、子どもたちを喜ばせてほしい。

委員： 事務事業評価の「達成度の判定理由」の欄にコロナウイルスという言葉が出てくるが、コロナの状況でも前年度より利用者が増えている施設もあるので、コロナで減ったと一概に言えないのではないかな。これまで行ったことがないところに行ってみようかという家庭もあったのではないかなと思う。

コロナだからと本質は変えるところはないのか、コロナが収まれば増えるのかといわれればそうではないかもしれないので、あまりコロナの状況に引っぱられない評価をしたほうがいいのではないかなと思う。

担当課： 昆虫の家などはコロナもあって、遠くに行くよりも近くに、ということで増えたことはある。他方、スポーツ施設のトレーニングルームなどは何か月も閉鎖せざるを得なかった状況で再開後も人数制限しており、そういったところでは人数は確かに減っている。施設によって影響はあったかと思っている。

委員： 元々の企画が時代にそぐわなくなってきたり、新しく他団体との連携などで改善できるものなどは、コロナが理由ではないと思う。例えばコンサートの内容を刷新したり、子どもハローワークの人数が増えていないなどはコロナが理由ではない。コロナが理由で増減したものと、元々あった企画をこれからどうしたらいいか検討すべきものとは整理して、今後の改善に向けて取り組んでもらえたらと思う。

委員： 自宅からの距離が市の図書館と同じくらいなので、以前聖籠町の図書館も利用したが、そのときは胎内市在住の人は本が借りられないと言われた。相互利用が可能になったとあるが、そうなのか。聖籠町図書館では読み聞かせのイベントや、期間ごとに本に関するイベントもしていたので、図書館の中でできるイベントがあったら行く人も増えたりすると思う。

担当課： 現在は胎内市在住でも聖籠町の図書館を利用できる。平成30年度からは新潟市の図書館でも借りることができるなど、相互利用ができる図書館が増えている。

胎内市図書館でも、ボランティアによる絵本の読み聞かせは月に2回やっている。イベントについてはスペースの都合もあってなかなかできないが、夏休みや読書週間やクリスマスなどにやっている。PRが薄かったと思うので力を入れていきたい。

委員： 図書館に入るときに毎回名前を書くが、いつまで続けるのか。カードがあるからわかるのではと思うが。

担当課： コロナの感染拡大対策としてやっているが、本を借りた人は記録をたどることはできるが、学習しにくる人などもあるので記名をお願いしている。コロナ対策には当初よりも徐々に緩和してきているものもあるので、他市町村の運営も参考にしながら緩和も検討したい。

委員： 図書館にない本が黒川地区公民館の図書室にあたりするときも、返すときは図書館に返却でき、ありがたいと思う。利用しやすい工夫をしているのを感じる。対応もとてもよい。

委員： 各事業で講座やイベントをやっているが、具体的にどういう講座やイベントがあるかは事務事業評価シートまで見ないとわからないので、改善すべき事項だと思う。

委員： 「一般経費黒川地区公民館」で、事業の実施内容にイベントなどが書いてあるが、「事業の方向性」にはイベントに関する記述がない。生涯学習の事業としては、イベントについて今後どうするかが必要では。

委員： 事務事業の評価は①（成果を拡充・コスト投入を拡大）が1つであれば全部③（成果を維持・コスト投入を維持）だが、現状維持でいいとなると進歩がない。目標はある程度のところに持たないと進歩がない。達成度が◎の場合は今後の方向性を成果を拡充する①や②にするとか、少しでも上を狙うという方向性をつけたほうが、今後の10年後のまちの姿につながっていくのではないかと思う。

事務局： ③の評価は、力の注ぎ具合としては今のものを維持していき、成果が上がっていないところに力を注ぐということで、生涯学習の事業にはないが、別の施策の事業

が②になったりしている。

いまの状況で足りなければ進歩が必要ということになるが、施策全体としては概ね達成しているという判断の中で、今後の方向性が維持になっている。施策や事務事業の状況の中でここが足りないという話があれば、お願いをしたい。

委員：例えば、イベントを午前中にやって、同一会場で午後にも違うものを作って1日で済むようになれば経費を浮かすことができ、違うところにお金をかけることができる。まとめてやることで、違うことを考えるということも必要かと思う。

なぜ市にお金がないかというところ、若い人が少なくなってきているというところに行きつくと思う。お金を払う若い年代が増えないと、財政が回らない。そういう現状があるのだから、生涯学習が起爆剤になって人が来たり、若者が増えるきっかけになったりする可能性があると思うので、③の維持の評価で終わるのではなくて②の成果の拡充として目標を持って、新たな人が来るようなイベントを増やすことを仕掛けて実験的にやっていくというのもいいのではないかと思う。

まとめられるものがあればまとめて、その実績を来年・再来年に反映させていくこともできるので、考えてもらいたいと思う。

委員：現状維持は進歩がなく、一番ダメだと思う。方法を変えるとか内容を変えるというのは、これまでとの大きな切り替えになると思う。

事務局：考えていきたい。

施策22 防災・減災

委員：「施策展開の基本的な考え方」のところに、（ ）書きで自助と共助は書いてあるが、公助が書かれていない。「行政は」から始まる文が公助のことだと思うが、そこに（公助）と付けたらいいのでは。

「成果指標による現状分析」の欄に「自分たちのまちは」とあるが、「施策展開の基本的な考え方」での記述に合わせて「自分たちの地域は」でいいのでは。

担当課：直したい。

委員：「要配慮者」「要援護者」「要支援者」の言葉を同じ意味で使っているのであれば、要支援者に統一してはどうか。

担当課：意味は同じなので、統一する。

委員：耐震改修の事業の対象となる建物は市民の住宅か。学校などの公共施設の耐震については管理しているのか。

担当課：事業は一般の住宅を対象にしている。また、公の施設は市で対策を行っている。

委員：最近空き家で解体されるものが増えてきていると感じるが、空き家の数は把握しているか。

担当課：解体している件数は増えている。空き家の数については調べて後日お伝えする。

委員：今後の「施策方針に関する説明」の4項目めに初めて「防災・減災に努める」と出てくるが、1項目めに防災・減災の言葉を持ってくる姿勢が必要では。防災・減

災の言葉をセットでもっと用いていくことが、施策名に応じた事業実施なのではないか。

担当課： 消防署との連携は防災・減災の手段という考え方からすると、1項目めと2項目めが防災・減災の基盤になるものと思うので、意見を踏まえ文言を修正する。

委員： 「パーテーション」はもっと市民にわかりやすい言葉にするといいと思う。

担当課： この内容はコロナ禍において適正に避難所対応や運営をしていくというものであり、パーテーションや衛生品だけの話ではないので、そうした文言に修正する。

委員： 「取組の状況と今後の方向性」の④の説明は文言も具体的で、こういう説明であれば市民の目から見てわかりやすいと感じる。

委員： 同じく⑤に関して、以前土石流のマップがあったと思うが、現在もあるのか。また、鼓岡と大長谷の担い手センターが避難所だという認識だったが、にこ楽・胎内も避難所で、大長谷の防災拠点施設は避難所ではないとも聞いた。もしそうであれば、ガイドブックに明記してもらいたい。

担当課： 奥胎内ダムも稼働して浸水の区域や深さも変わったりしていることもあるので、浸水や土砂災害なども含めた新たなハザードマップを掲載したガイドブックを来年2月頃に配布する予定だ。

一次避難所は各集落の集会所、二次避難所には総合避難所として大長谷の防災拠点施設、担い手センター、レクホールが指定避難所になっており、各集落の避難計画に基づいて避難する。これとは別に自主避難所というのは、震度4以上の地震や津波注意報が出た場合に心配があったら避難できるように各地区に設けるもので、鼓岡地区・大長谷地区では大長谷防災拠点施設とにこ楽・胎内に開設される。

一次避難所、総合避難所、自主避難所と避難所の種類の区別が難しいと住民の皆さんが感じているところがあるので、その区別を新しいガイドブックに示す。

委員： 市で自主防災組織の設立を推進しているが、自主防災組織で初期消火ができればいいが、集落に消火栓につなぐホースがない。ホースはなくてもいいのか。消防が来るのを待ってればいいということなのか。また、消防車がどのくらいの時間で到着するか、目途があれば聞きたい。

担当課： 中条地区は消防署が近いためかホースの収納箱がないことが多いが、大規模災害や糸魚川の大火のようなことがあれば消防車両が駆け付けるのが遅れたり、消防車両だけでは消火しきれないこともあり得る。そうしたときに、消防団もあるが、消火栓とホースの格納庫があって、自主防災組織でも使えるようであれば初期消火にあたってもらいたいというのが、自主防災組織の目的の一つでもある。

委員： 市の補助が補助率1/2で上限10万では、15万円くらいのホースでは7万しか補助が出ない。大きな集落なら出しても、小さな集落だと出すのも難しい。最初から上限10万にすればいいのではないか。

担当課： 補助率を上げるなどの工夫も考えさせてもらいたい。

委員： ⑤の「これまでの主な取組と実績」に、H30に「ガイドブックに避難所生活についての情報を追加した」とあるが、ガイドブックやハザードマップは作ったあとの周知も大事だ。わかりやすく説明して周知することを今後の方針のところに表記して、ぜひ作って配って終わりではない取組をしてもらいたい。

担当課： ガイドブックの内容を集落に説明に行くこともあるし、防災士に説明してもらう取組もあるので、今後もそのようにして周知をしていく。

委員： ④の主な取組と実績に「県に対し河床掘削を要望」とあり、主な課題にも「継続して県に要望していく」とあるが、市が要望してもその箇所に手が回らないというのが実情なのか。「要望しているが継続していく」と、主な課題と今後の対応のほうにまとめて書いたほうがわかりやすいと思う。

担当課： 下流のほうから計画的にやっているが、なかなか進まない現状がある。

委員： ④の「主な課題と今後の対応」欄に「施設の老朽化が進行している」とあるのは、雨水排水ポンプのことか。書いた方が分かりやすい。

委員： 防災無線の改修とはどういうものか。

担当課： 防災無線が老朽化して、急な故障により大切な情報が伝わらないと困るので、前もって更新を進める。結構な金額が掛かるので、計画的に進める。

委員： 防災無線でのクマの出没情報は地域を絞って流しているのか。地域によって流れないという声を聞いたが、全市に流したほうがいいと思う。

担当課： 今年のクマの出没情報を当初地区を絞って流していたが、その地区へ向かう方もいるので、10月頃からは全市に流している。

委員： 中条川が二股に分かれるところで土砂が溜まっている。土砂の取り除きはどこがやるのか。

担当課： 管理は県。新発田地域振興局の治水課が確認して、定期的に泥を上げたりしている。

委員： 食器のかけらが落ちているなど、そこまで手が回っていない。地域でやったほうがいいのかとも思うが、それも負担である。夏には川に入る子供もいるし、景観上も、定期的な清掃活動など何とかできないものかと思う。

委員： 女性消防隊は特定の地域で組織されているのか。

担当課： 市報で全地区を対象に募集している。

委員： 広域消防の移転について、いまの時点でわかる範囲で教えてもらいたい。

担当課： 黒川出張所と胎内消防署の統合は令和8年度を予定している。地区別に説明会を行い、そこで出た意見を集約して、統合後の建設候補地を公有地を前提としていくつか上げており、広域消防本部で交通の利便性や救急車の到着時間、面積要件などの評価基準で評価し、来年くらいに住民説明会で案を示す予定にしている。

その他（外部評価全般について）

委員： 令和元年度の評価が縮小であったのに令和2年度予算が増えているものが目につくが、なぜなのか。

委員： 資料に数字の単純なミスがあるが、各部署から上がってきたものがきちんと精査されていないということだと思う。シートを見て二次評価をして、その資料を私たち外部評価委員が見て判断するわけだが、数字がおかしいのに気付かずに評価をし

ているのではないか。

事務局： 今後こういうことがないようにさせていただく。

委員： 中条川の泥上げは県の管轄ということであったが、任意の事業に限らず義務とされている事業であっても評価することが大事で、評価施策を選ぶ際には選定対象にしたほうが良いと思った。